学校番号	１００１

令和８年度　家庭科

教科	家庭科	科目	保育基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	保育基礎　ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ　(教育図書)						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

かけがえのない存在である子どもについて学ぶ科目です。子どもがどう発達するか、子どもにはどんな保育が必要か、とくに職業として子どもにかかわる保育者の視点から考えていきましょう。
子どもの健やかな育ちを支えるために必要な知識・技術などについて体験的に学びましょう。

2　学習の到達目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことを通して，哺育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)保育の意義や方法，子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。
(2)子どもを取り巻く課題を発見し，保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
(3)子どもの健やかな発達を目指して学び，保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	C:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。	子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。	子どもの発達や保育にかかわる職業について関心をもち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする主体的・意欲的な態度を身につけている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

月	単元名	学習内容	単元(題材)の評価基準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
4月		・保育基礎の学び方	a:学び方について理解する。	プリント		
5月	子どもの保育	・保育の意義 ・保育の環境 ・保育の方法	a:保育には、子どもの生涯の人格形成の基礎を培う重要な意義があることを理解している。 b:保育者のあるべき姿とはどのようなものかを考えられている。 a:保育には、子どもの生涯の人格形成の基礎を培う重要な意義があることを理解している。 c:保育者のあるべき姿とはどのようなものかを考えられている。 a:家庭及び幼稚園、保育所や認定こども園について、それぞれの養育・保育環境の特徴や役割を理解している。 b:現代の子どもや子育て家庭を取り巻く環境の問題、多様な保育のニーズに関する課題を知り、子どもの健やかな発達のための適切な保育環境について考えられている。 a:子どもの成長には，子どもを受け止め理解してくれる大人の存在が不可欠であることを理解している。 c:子どもの健やかな発達のために、保育環境をどのように創意工夫していくべきかについて課題を発見し、考察・工夫している。	プリント ワークシート 定期考査 確認テスト 実習	プリント ワークシート 定期考査	プリント ワークシート 振り返りシート 生徒観察

6月   <

9 月 10 月	子どもの文化	・保育実習 ・子どもと遊び ・子どもの表現活動 ・児童文化財製作	c:実際に子どもとふれ合うことを通じて、子どもの保育の方法や発達、健康・安全、福祉、遊びについて理解を深め、保育者として主体的な態度を身に付けている。 a:子どもの健やかな発達における遊びの重要性や意義を、おもちゃづくりなどの活動を通じて理解している。 b:子どもの遊びの内容や時間・場所・仲間などが、近年の社会の変化の影響を受けて変容していることを知り、どのような課題があるか考えられている。 a:子どもの表現活動によって培われる能力について知り、表現活動の重要性や意義を理解している。 b:表現活動で子どもの意欲を引き出し、心身を育むための、保育者としての適切なかかわり方を理解している。 c:児童文化財の製作を通して、年齢に応じた子どもの発達を促すことに適した具体的な遊び方を提案できている。	プリント ワークシート 定期考査 実習	プリント ワークシート 定期考査	レポート 生徒観察 実習 プリント ワークシート 振り返りシート 生徒観察

11 月   <